

船舶事故調査報告書

平成23年3月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

事故種類	乗組員負傷
発生日時	平成22年10月20日 08時30分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港玉島1号ふ頭 水島港八幡防波堤灯台から真方位048°830m付近 （概位 北緯34°31.1′ 東経133°40.3′）
事故調査の経過	平成22年11月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 ^{かいほう} 海豊丸 499トン 140681 月星海運株式会社、豊益海漕株式会社 74.20m×12.00m×7.37m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成19年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 55歳 四級海技士（航海）免状 免許年月日 昭和57年3月18日 免許交付年月日 平成20年5月14日 有効期間満了日 平成26年3月1日 一等機関士 男性 61歳 五級海技士（機関）免状 免許年月日 昭和46年10月22日 免許交付年月日 平成20年2月13日 有効期間満了日 平成25年3月21日
死傷者等	負傷 1人（一等機関士が、肋骨骨折及び肺挫傷、6日間の入院加療後、通院治療を行った。）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長、一等機関士ほか3人が乗り組み、スチールコイル約1,743tを載せ、船首約3.8m、船尾約4.8mの喫水で、平成22年10月19日水島港玉島1号ふ頭に左舷着けした。 船長は、降雨が予想されたので、荷役業者による荷揚げ開始前の20日08時05分ごろ、乗組員全員により「呉港で荷揚げするスチールコイルに防水シートを掛ける作業」（以下「本件作業」という。）を行うことにし、ハッチカバーを閉鎖した状態の船倉に入った。 乗組員全員は、船倉中央部に1段で8列に積まれた呉港で荷揚げするスチールコイルの上に乗し、船長が指揮し、照明灯を点灯して本件作業を始めた。 一等機関士は、本件作業が終了したとき、スチールコイルに掛けた防水

	<p>シートの上におり、船倉から甲板に出るために右舷側の外板付近を船倉後部のはしごに向かって防水シートの上を足でスチールコイルの隙間を探りながら移動中、スチールコイルの丸みで足が滑って船倉の底部に落下した。</p> <p>一等機関士は、乗組員の援助を得て甲板に上がり、救急車により病院に搬送された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風力 1、気温 約20.5℃</p> <p>海象：潮汐 上げ潮末期</p>	
その他	<p>本船は、直径約1.2～1.3m、幅約0.70～0.75mのスチールコイルを水島港と呉港の両港で荷揚げする予定で満載状態に積載し、船倉中央部に呉港で荷揚げするスチールコイルが1段で8列に積まれ、その前後に水島港で荷揚げするスチールコイルが1段で計13列に積まれており、スチールコイル間の隙間が船首尾方向に約0.7～0.8mあった。</p> <p>本船では、荷揚げ中に雨が降れば荷役を中止することになっているが、ハッチカバーを閉鎖するまでの間にスチールコイルが濡れないようにするために本件作業を行ったもので、船倉内の照明は、作業に支障のない明るさであった。</p> <p>一等機関士は、本件作業の経験が豊富であった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、水島港に着岸中、降雨に備えて船倉内で本件作業を行ったのち、一等機関士が、船倉から出るために防水シートの上を足でスチールコイルの隙間を探りながら移動する際、スチールコイルの丸みで足が滑ったことから、船倉の底部に落下したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、水島港に着岸中、降雨に備えて船倉内で本件作業を行ったのち、一等機関士が、船倉から出るために防水シートの上を足でスチールコイルの隙間を探りながら移動する際、スチールコイルの丸みで足が滑ったため、船倉の底部に落下したことにより発生したものと考えられる。</p>	